

2021年3月期 第3四半期 決算説明資料

 ユシロ化学工業株式会社 TYO 5013

2021年2月



A dynamic splash of clear water against a light green background, with numerous droplets and ripples. The splash is positioned on the right side of the slide, partially overlapping the main title.

2021年3月期第3四半期 決算業績概要

Results

新型コロナウイルス感染症に対する当社グループの対応

- 得意先での生産状況にあわせ、操業停止・減産で対応。
- テレワーク、時差出勤、作業時間の短縮など、各国の状況に沿った感染症対策で対応。

注) 日本及びインド以外のグループ会社は12月決算のため、記載内容は9月までの情報。

セグメント	自動車生産の動向	当社グループの対応
日本	<ul style="list-style-type: none"> ● 各メーカーは3月下旬より生産停止及び減産を実施し、5月下旬から生産を再開。国内販売及び海外輸出の回復により生産台数は徐々に増加し、9月に前年の水準まで回復。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 営業活動は3月下旬以降自粛。6月以降は自粛を緩和。生産活動は、4月、5月に減産対応を実施。
中国	<ul style="list-style-type: none"> ● 各メーカーは1月末に一斉に生産を停止し、2月中旬より順次生産を再開。日系メーカーの生産体制は4月に通常状態に戻り、4月以降は前年平均を上回る生産台数を維持。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 2月の各メーカーの生産再開を受け、営業活動を再開するも、多くの企業が訪問を禁止。4月中旬より訪問を解禁する企業が増え、本格的に営業活動を再開。
南北アメリカ	<ul style="list-style-type: none"> ● 米系メーカーは3月中旬、日系メーカーは3月下旬より生産を停止。アメリカ、メキシコは4月、5月に生産台数が大きく落ち込んだ。6月以降は回復に転じ、8月に前年と同水準まで回復。ブラジルは5月以降の稼働率の回復が遅れていたが、9月の顧客の稼働率は通常の8割程度まで回復。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 3月に在宅勤務、シフト制を導入し、一部生産調整を実施。4月は、3月の対応に加えて時短勤務や休業日を導入。アメリカは5月中旬より通常営業を再開。メキシコは9月時点でも完全2班制での勤務を継続している。ブラジルは9月から時短勤務を解除して通常勤務に移行。
東南アジア / インド	<ul style="list-style-type: none"> ● 日系メーカーは3月下旬より操業を停止し、5月下旬から順次生産を再開。マレーシアは稼働率の回復が早く、6月に生産台数が前年と同水準まで回復。タイは9月時点で前年の9割程度、インドネシアは回復が遅く、9月時点で前年の6割に満たない状況。インドは8月に前年の9割程度まで回復し、9～12月は前年平均を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● マレーシア及びインドは3月のロックダウンにより企業活動を停止。マレーシアは4月、インドは5月より販売・生産活動を再開。タイ及びインドネシアは在宅勤務やシフト制などを導入した上で企業活動を継続。インドネシアは感染拡大の影響を受け、9月時点でも2シフト勤務を実施している。

※自動車生産の動向に関する参考資料：『自動車産業ポータルMARKLINES 各国自動車生産台数、各種市場レポート』

2021年3月期第3四半期 連結業績概要

- 連結売上高は、第2四半期以降回復傾向にあるものの、新型コロナウイルス感染症による影響で減収。
- 営業利益、経常利益及び四半期純利益は、減収の影響で大きく減益も、営業利益は、第2四半期の赤字から黒字に転換。

(百万円)

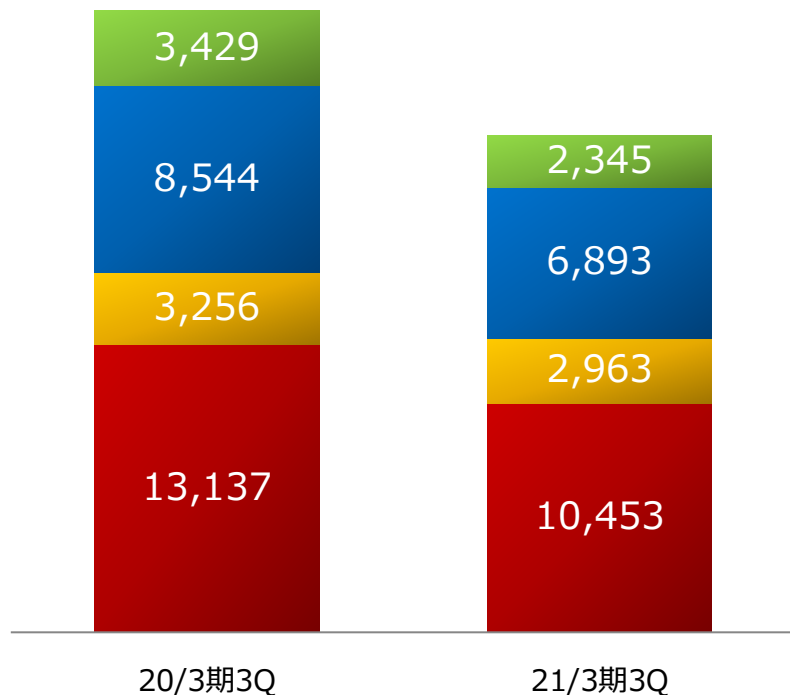
	20/3期3Q	21/3期3Q	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	28,368	22,656	△5,712	△20.1%
営業利益	1,824	412	△1,411	△77.4%
経常利益	2,287	699	△1,588	△69.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,671	484	△1,187	△71.0%

2021年3月期第3四半期 地域別売上高

- 国内：新型コロナウイルス感染症の影響は、得意先の自動車メーカー等で第2四半期以降回復傾向も、3月から5月の生産停止・減産の影響が大きく、減収。
- 海外：日本同様、新型コロナウイルス感染症の影響による得意先の生産停止・減産により、国毎に差があるものの全ての拠点で減収。

セグメント別売上高（百万円）

■ 日本 ■ 中国 ■ 南北アメリカ ■ 東南アジア/インド



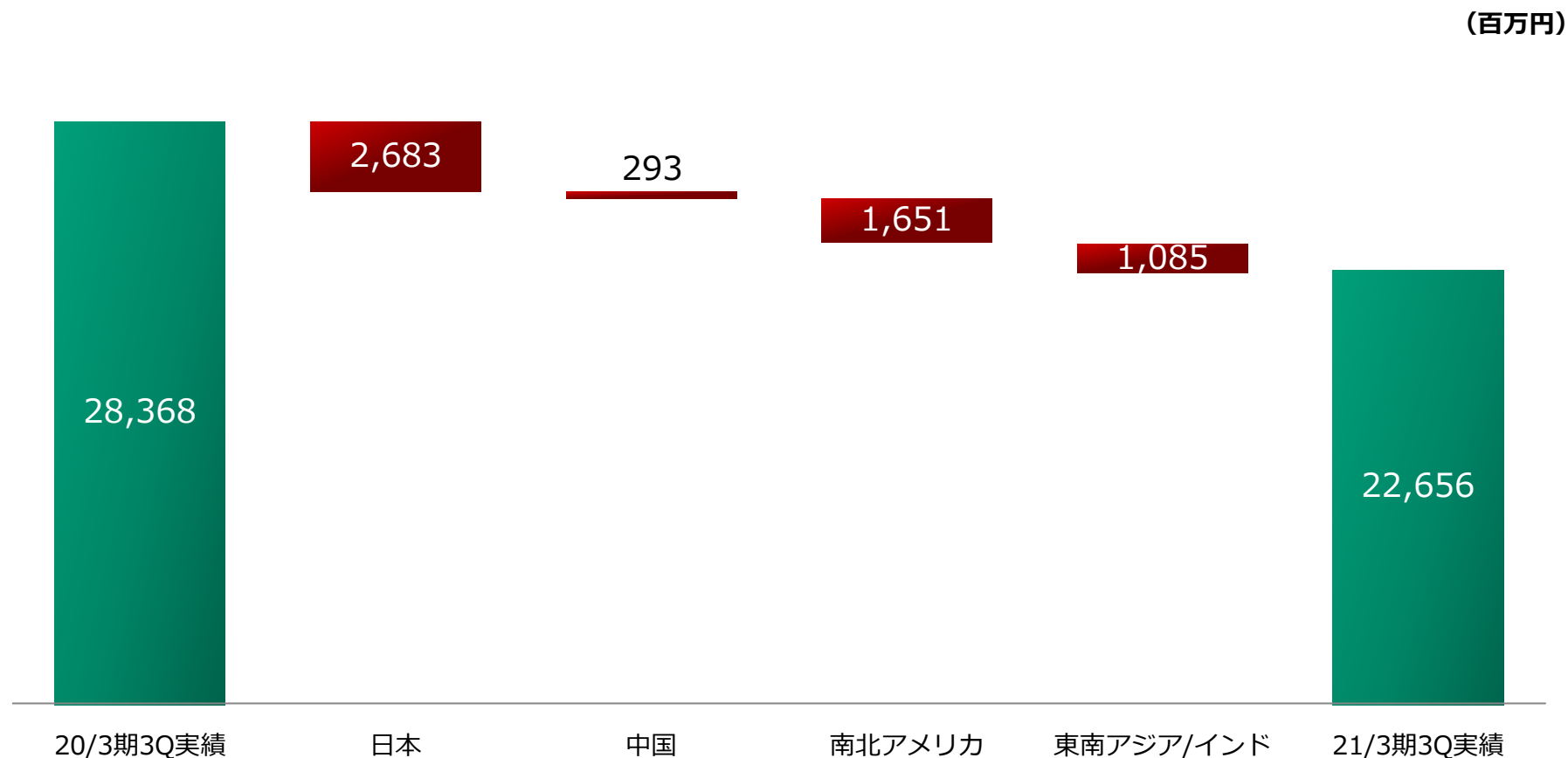
拠点別売上高（百万円）

拠点	20/3期3Q	21/3期3Q	増減率	
日本	14,509	11,583	△20.2%	
アメリカ	Yushiro America	2,806	2,175	△22.5%
	QualiChem	4,355	3,805	△12.6%
メキシコ	854	624	△26.9%	
ブラジル	741	427	△42.4%	
中国	3,925	3,388	△13.7%	
タイ	1,538	1,007	△34.5%	
マレーシア	673	517	△23.1%	
インド	566	408	△27.9%	
インドネシア	864	549	△36.4%	

※拠点別の金額は各社単体ベースで表示しております

2021年3月期第3四半期 売上高のセグメント別増減

- 各セグメントとも新型コロナウイルス感染症の影響で減収。
- 他のセグメントと比較して回復が早い中国セグメントは他のセグメントよりも小さい減収幅で収まる。

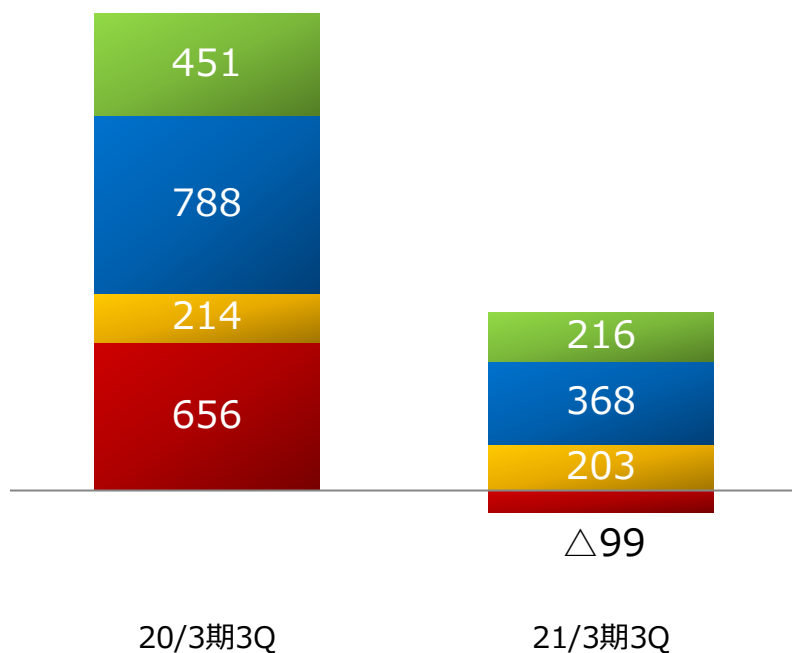


2021年3月期第3四半期 地域別営業利益

- 国内：売上高減少による固定費負担が影響し損失。
- 海外：新型コロナウイルス感染症の影響による減収の影響で、各セグメントで減益も黒字を確保。急激に回復したインドは、経費減の影響もあり増益。

セグメント別営業利益（百万円）

■ 日本 ■ 中国 ■ 南北アメリカ ■ 東南アジア/インド



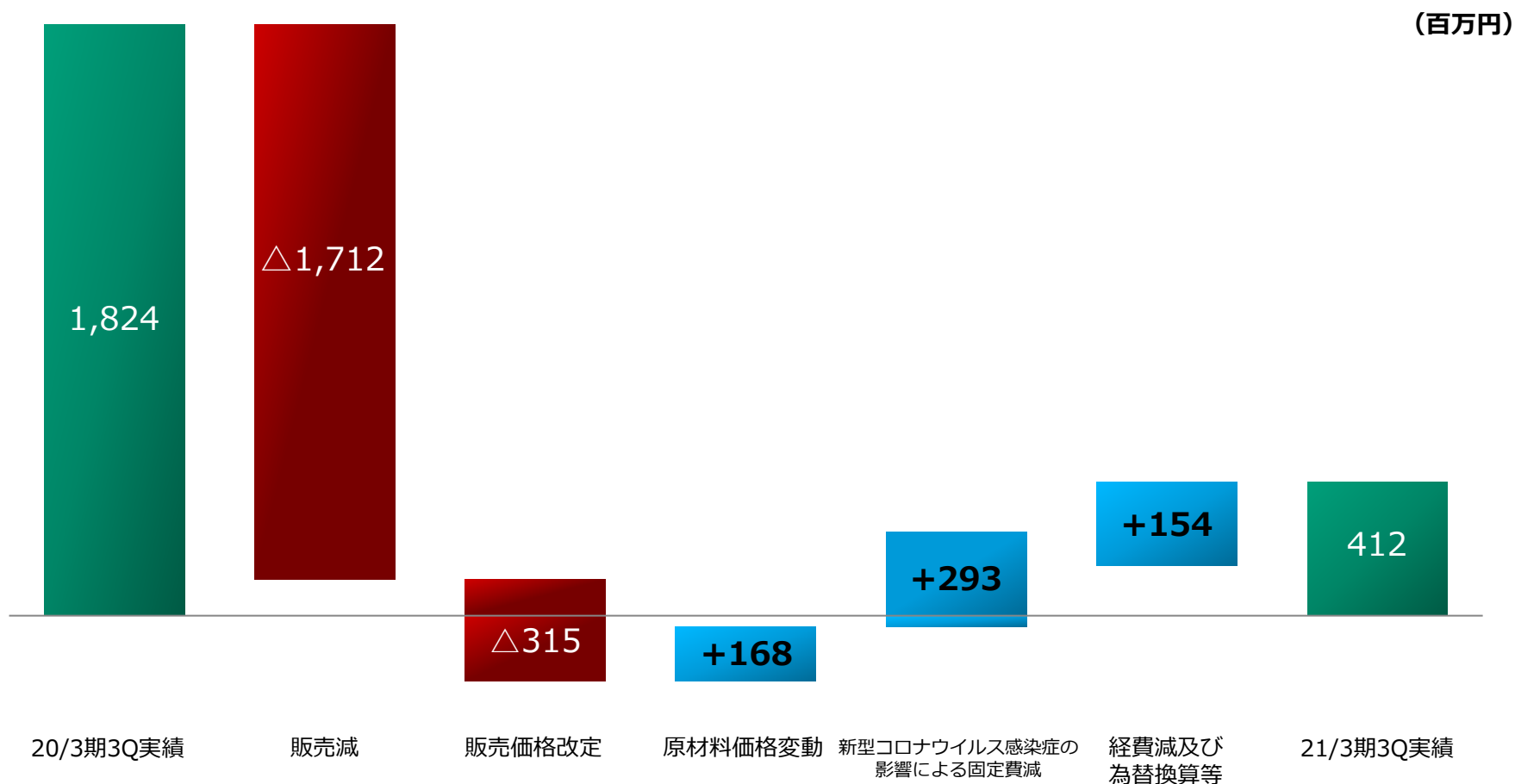
拠点別営業利益（百万円）

拠点	20/3期3Q	21/3期3Q	増減率	
日本	449	△314	—	
アメリカ	Yushiro America	325	149	△54.0%
	QualiChem	404	240	△40.6%
メキシコ	121	66	△45.0%	
ブラジル	20	△22	—	
中国	265	246	△7.2%	
タイ	276	130	△52.8%	
マレーシア	58	51	△12.5%	
インド	20	25	+19.6%	
インドネシア	174	97	△44.0%	

※拠点別の金額は各社単体ベースで表示しております

2021年3月期第3四半期 連結営業利益の増減要因分析

- 第2Qは赤字も、新型コロナウイルス感染症の影響からの回復と経費の削減の効果もあり、第3Qは黒字に転換。





2021年3月期 業績予想



Forecast



©2020 YUSHIRO CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.
All Rights Reserved.

業績予想の前提

- 新型コロナウイルス感染症の拡大は依然として予断を許さない状況ではあるが、世界各国で経済活動は徐々に回復していくと仮定。

	前提内容
日本	主要顧客である自動車関連業界ではメーカー毎で生産活動の回復に差はあるものの前年並みの生産活動に戻っている。
中国	4月以降、前年を上回る生産活動を維持しており、好調な生産活動を継続。
南北アメリカ	アメリカ・メキシコの顧客は前年並みの生産活動に戻っている。ブラジルの顧客の回復が遅れており、稼働率は80~90%程度で推移。
東南アジア / インド	国毎の回復状況に差があるが、インドネシアを除き稼働率は前年並みの水準まで回復。新車の販売サービス税の減税対策を行っているマレーシアと顧客の稼働が好調なインド、タイは前年実績を上回るまで回復。

2021年3月期 連結業績予想

- 通期予想を上方修正。
- 売上高：新型コロナウイルス感染症の影響からの回復が予想よりも早く、前回予想から上方修正。
- 各利益：売上高の上方修正に伴い、各段階の利益額が改善。

(百万円)

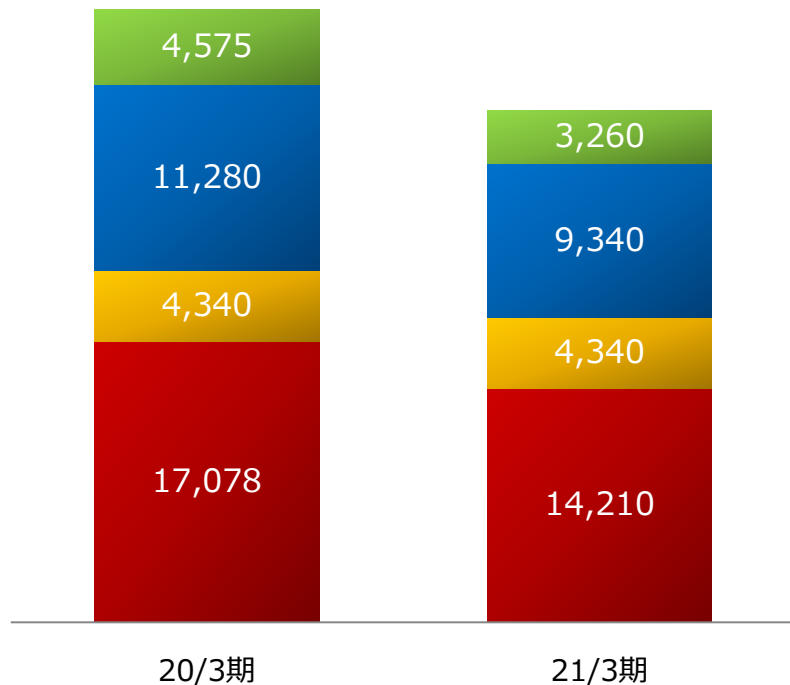
	20/3期 実績	21/3期 前回予想 (9月15日)	21/3期 今回予想 (2月5日)	前期比		前回予想から の増減額
				増減額	増減率	
売上高	37,274	30,870	31,150	△6,124	△16.4%	+280
営業利益	2,213	280	850	△1,363	△61.6%	+570
経常利益	2,718	500	1,150	△1,568	△57.7%	+650
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,913	130	600	△1,313	△68.6%	+470

2021年3月期 地域別売上高予想

- 新型コロナウイルス感染症の影響で全拠点で減収も、前回予想から改善。
- セグメント別では、回復が早く前期並みまで戻る予測の中国を除き減収。

セグメント別売上高（百万円）

■ 日本 ■ 中国 ■ 南北アメリカ ■ 東南アジア/インド



拠点別売上高（百万円）

拠点	20/3期	21/3期	増減率	
日本	18,924	15,759	△16.7%	
アメリカ	Yushiro America	3,728	2,945	△21.0%
	QualiChem	5,695	5,042	△11.5%
メキシコ	1,150	930	△19.1%	
ブラジル	980	611	△37.6%	
中国	5,783	4,899	△15.3%	
タイ	2,031	1,449	△28.6%	
マレーシア	914	712	△22.1%	
インド	730	490	△33.0%	
インドネシア	1,180	778	△34.0%	

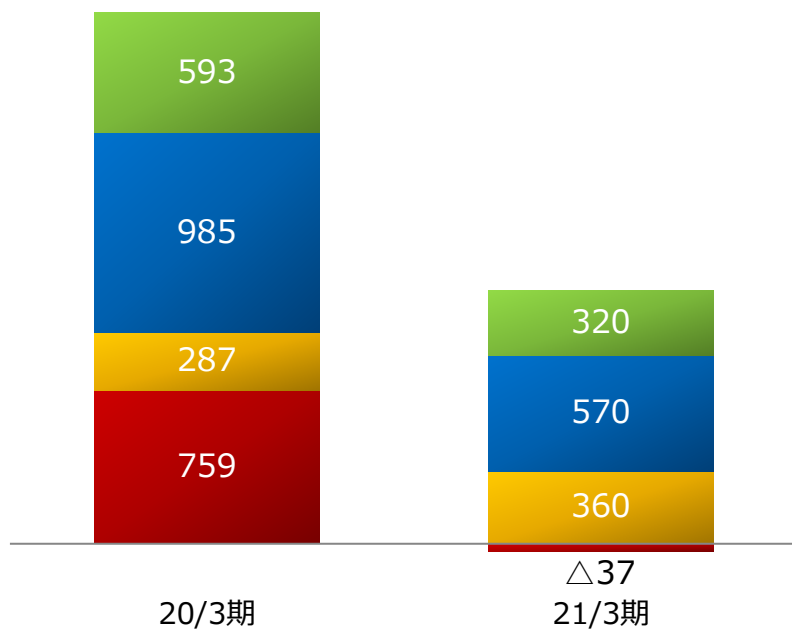
※拠点別の金額は各社単体ベースで表示しております

2021年3月期 地域別営業利益予想

- セグメント別では、売上高が前年並みに回復している中国セグメントは70百万円の増益。その他のセグメントは新型コロナウイルス感染症拡大による減収により減益。
- 拠点別では、売上高が前年並みまで戻る予測の中国を除き減益も、前回予想から改善。

セグメント別営業利益（百万円）

■ 日本 ■ 中国 ■ 南北アメリカ ■ 東南アジア/インド



拠点別営業利益（百万円）

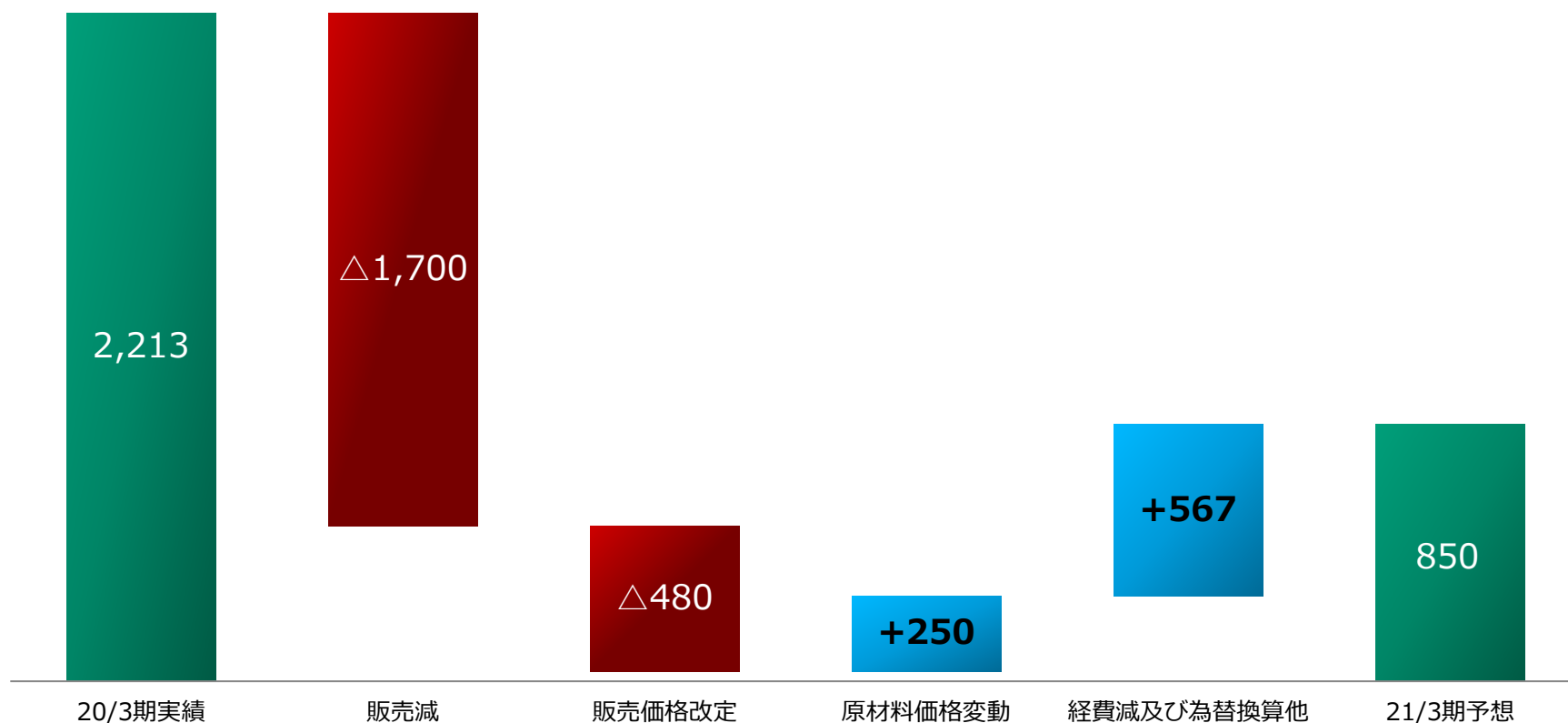
拠点	20/3期	21/3期	増減率	
日本	476	△285	—	
アメリカ	Yushiro America	406	214	△47.2%
	QualiChem	481	330	△31.3%
メキシコ	168	113	△32.4%	
ブラジル	42	△17	—	
中国	358	429	+19.8%	
タイ	355	198	△44.1%	
マレーシア	70	67	△4.7%	
インド	25	21	△12.7	
インドネシア	244	140	△42.3%	

※拠点別の金額は各社単体ベースで表示しております

2021年3月期 連結営業利益に関する見通し

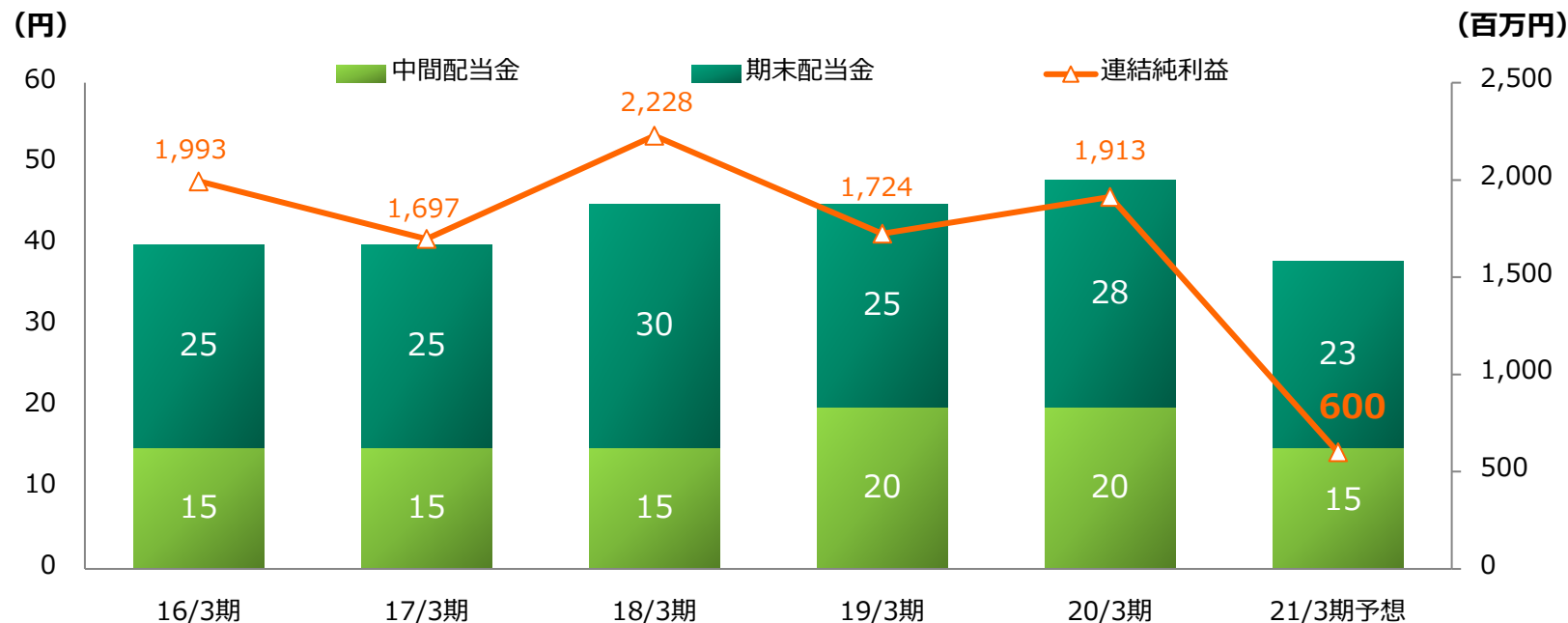
- 売上高の上方修正により、前回予想から大きく改善。
- 経費削減も新型コロナウイルス感染症拡大による販売減の影響で今期は減益見込み。

(百万円)



株主還元

- 配当方針 連結配当性向30%を一つの目安とし、投資とのバランスを考慮しながら安定的な配当を目指します。



配当性向 (連結)	27.8%	32.2%	27.4%	35.4%	34.1%	86.0%
純資産配当率 (連結)	2.0%	2.0%	2.1%	2.0%	2.2%	—
1株当たり配当金	40円	40円	45円	45円	48円	38円



当資料取扱い上の注意

当資料に記されたユシノの現在の計画・見通し・戦略等のうち歴史的事実でないものは、現在入手可能な情報から得られたユシノの経営者の判断に基づいた、将来の業績に対する見通しであります。従いまして、これら業績の見通しのみにより全面的に依拠されることは控えるようお願いいたします。実際の業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

実際の業績に影響を与え得るリスクや不確定な要素には、以下のものが含まれます。

- ① ユシノグループの事業環境を取り巻く世界情勢
- ② 世界の原油価格動向
- ③ 米ドルを中心とした為替レートの変動
- ④ 偶発事象 等

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確定な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでユシノをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。